

# 福島第一原子力発電所の事故収束に向けた取り組み

福島第一原子力発電所における事故発生以来、地域の皆さまに大変なご心配とご迷惑をお掛けしておりますことに、改めて心よりお詫び申し上げます。

4月に発表した事故収束に向けた道筋について進捗状況をお知らせします。

## 基本的考え方

原子炉と使用済燃料プールの安定的冷却状態を確立し、放射性物質の放出を抑制することで、避難されている方々のご帰宅の実現および国民の皆さまが安心して生活いただけるよう全力で取り組みます。⇒**変更ありません**

## 目標

### ステップ1

放射線量が着実に減少傾向となっている ⇒7月に目標を達成し終了



### ステップ2

放射性物質の放出が管理され、放射線量が大幅に抑えられている（7月から3～6ヶ月） ⇒ 使用済燃料プールについて目標を達成  
その他は変更ありません

## 課題の取り組み状況（8月18日現在）

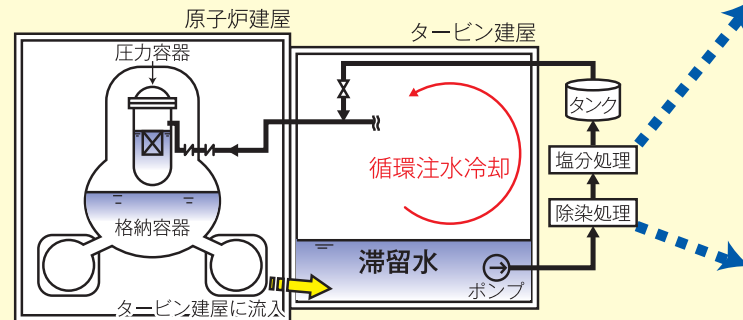
引き続き、事態の収束に向けて全力を挙げて取り組んでまいります。

### 原子炉 ⇒「安定的な冷却」を継続

- ・ 滞留水を処理して原子炉冷却のための注水に再利用する「循環注水冷却」を継続しており、格納容器底部の温度は約100度で安定しています。
- ・ 今後、「冷温停止」に必要な注水量を確認します。

### 滞留水 ⇒安定的な処理に向け施設を増強

- ・ 8/16までに約49,230トン进行处理しました。
- ・ 滞留水の水位は着実に低下しています。
- ・ 塩分処理施設を増強しました。
- ・ 除染装置（サリー）を増強しました。



増強した塩分処理装置



除染装置（サリー）設置工事

### 使用済燃料プール ⇒「より安定的な冷却状態」に到達

- ・ 熱交換器によるプール水の循環冷却を全号機で開始しました。
- ・ これによりプール水温は約40度に保たれ「より安定的な冷却状態」に到達しました。
- ・ 4号機で、腐食対策としてプール水の塩分除去を開始しました。



4号機の使用済燃料プールの冷却設備

### 放射性物質の放出量

⇒大幅に低下

- ・ 現時点の放射性物質の放出量は最大でも事故直後の約1000万分の1と評価しています。
- ・ 発電所敷地内外のモニタリングを継続的に実施しています。

